

2023
12/27 [水] 19:00開演

ウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団

2曲の傑作「第9」に聴く、いま音楽を続けることの意味

今も戦争が続くウクライナから、これまでの来日公演が各地で絶賛され「スラヴ圏最高のオーケストラ」との声もあがるウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団が4年ぶりに来日する。アクロス福岡ではチェコの巨匠ドヴォルザークの「交響曲第9番『新世界より』」とベートーヴェンの「交響曲第9番『合唱付き』」というクラシック音楽を代表する2つの「第9番」が演奏される。指揮は、小澤征爾の招きでアメリカ、タングルウッドのサマーアカデミーにも招かれ、その後ヨーロッパ、アジアなどで活躍を続けるニコラ・ジャジュラ(1961年生まれ)で、1996年からこのオーケストラの音楽監督をつとめている名匠である。

ベートーヴェンの「第9」は日本では年末に欠かせない作品でもあるが、その第4楽章では高らかに「人間愛」「兄弟愛」が歌われることでも知られる。ウクライナ出身の指揮者、4人の歌手たちがいまこの交響曲を演奏すること、そしてそれを聴く事にも、特別な意味があると感じる。音楽は「聴く」という行為によって成立するアートであり、いま再びこの時代にクラシック音楽を聴く意味を考えてみたい。実際に戦闘に加わったオーケストラ団員もいるということだが、戦禍のなかでも演奏を続けるその意欲は、まさにベートーヴェンの精神に沿ったものではないだろうか。期待のコンサートとなる。

出演 指揮/ニコラ・ジャジュラ

ソプラノ/テチアナ・ガニーナ アルト/アンジェリーナ・シュヴァツカ
テノール/ドミト・クズミン バリトン/セルギイ・マゲラ 合唱/アクロス福岡特別合唱団

曲目 ドヴォルザーク: 交響曲 第9番 ホ短調「新世界より」 op.95, B.178

ベートーヴェン: 交響曲 第9番 二短調 op.125《合唱付き》

料金 S席 13,000円 A席 10,000円 B席 8,000円

U25 (A席 5,000円 B席 4,000円)



©三浦興一



©堀衛

2024
2/5 [月] 19:00開演

ショパンコンクール入賞者シリーズ

ワルシャワ国立
フィルハーモニー管弦楽団

新時代のショパンを、名門とコンクール優勝者で聴く

ショパン国際ピアノ・コンクールは5年に一度、ポーランドの首都ワルシャワで開かれる。これまでもマルタ・アルゲリッチ、クリスティアン・ツィメルマンなど、世界的な巨匠ピアニストたちがこのコンクールから巣立って行った。コロナ禍で延期された後、2021年に開催された第18回のコンクールでは中国系カナダ人のブルース・リウが第1位を獲得。近年はコンクールの過程がすべて配信されることもあり、リウの名前はあつという間に世界に広まった。その美音も高く評価されている。

ショパン・コンクールのファイナルで若きピアニストたちと共演するのがワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団で、こちらは1901年創設とヨーロッパのオケの中でもかなり古い歴史を持つ団体である。ワルシャワでの定期演奏会、各地のフェスティバルへの出演など多彩な活動をしているおり、実力も高い。今回タクトをとる指揮者アンドレイ・ボレイコはこのオーケストラの音楽・芸術監督として4シーズン目を迎える。

この演奏会で興味深いのは、ショパンの初期の協奏曲的作品として知られる「ポーランド民謡による大幻想曲」がプログラムに入っている事。ライブで聴くチャンスはほとんどない作品だけにとても楽しみだ。もちろんショパンの「ピアノ協奏曲第2番」、ベートーヴェンの「交響曲第7番」も名演に期待!



©Marco Borggreve

©Makoto Nakagawa



出演 指揮/アンドレイ・ボレイコ ピアノ/ブルース・リウ

曲目 ショパン: ポーランド民謡による大幻想曲 イ長調 op.13

ショパン: ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 op.21

ベートーヴェン: 交響曲 第7番 イ長調 op.92

料金 S席 16,000円 A席 14,000円 B席 12,000円
C席 10,000円(U25 5,000円)

2024
3/ 13 [水] 19:00開演

ショパンコンクール入賞者シリーズ

2つのショパン国際コンクール優勝ピアニストと川口成彦による The Real Chopin × 18世紀オーケストラ ショパンの生きた時代の「音」を蘇らせる興味深いコンサート

音楽好きの方はご存知だろうが、ピアノという楽器は発展の過程で大きな変化をとげてきており、ショパンの生きた19世紀前半の時代はその楽器としての進歩がダイナミックに進んだ時代でもあった。当時のピアノと21世紀のピアノを較べると、大きさも、音そのものもまったく違うのである。ショパンの生きた時代の「音」を体験できたらと思うのだが、そこにはなかなか高いハードルがあった。しかし、最近では楽器の研究、保存も進み、19世紀前半の「音」も再現できるようになった。

この「The Real Chopin」と題されたコンサートは、その19世紀のピアノを使った演奏、当時の演奏法を取り入れたオーケストラが共演する試みである。いわゆるモダン・ピアノのコンクールであるショパン・コンクールとは別に「ショパン国際ピリオド楽器コンクール」も2018年に第1回がワルシャワで開催され、エラール、ブレイエル、ブロードウッドなどの19世紀前半のピアノを使った演奏により、トマシュ・リッテル（ポーランド出身）が優勝、日本の川口成彦が第2位となった。そのふたりに加え、第16回のショパン国際ピアノ・コンクールの優勝者ユリアンナ・アヴデーエワが参加するという豪華な顔合わせ。共演するのは「ピリオド奏法」=作曲当時の楽器奏法を取り入れたオーケストラ「18世紀オーケストラ」だが、創設者フランス・ブリュッヘン（故人）の思い出に捧げて、彼の愛したモーツァルトの交響曲も演奏される。

また川口は世界的に活躍する作曲家・藤倉大のフォルテピアノのための作品も演奏する。モーツァルト、ショパン、そして現代へと繋がる歴史もそこに現れる。まさに一期一会のコンサートを聴き逃さないように。

- 出演** フォルテピアノ/ユリアンナ・アヴデーエワ トマシュ・リッテル 川口成彦
曲目 モーツァルト：交響曲 第40番 短調 KV550
 藤倉大：Bridging Realms for fortepiano (演奏：川口成彦)
 ショパン：ポーランド民謡による大幻想曲 長調 op.13 (演奏：川口成彦)
 ショパン： Rond・クラコヴィアク 長調 op.14 (演奏：トマシュ・リッテル)
 ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11 (演奏：ユリアンナ・アヴデーエワ)
料金 S席 15,000円 A席 12,000円 B席 8,000円 (U25 4,000円)



©The Fryderyk Chopin Institute ©W. Grzedzinski ©The Fryderyk Chopin Institute



©Annelies van der Vegt

2024
1/ 6 [土] 18:00開演

福岡ジュニアオーケストラ 第4回定期演奏会

- 出演** 指揮/下野竜也 (ミュージックアドバイザー)
曲目 J.S.バハ：管弦楽組曲 第3番より 第2曲「アリア」
 モーツァルト：アダージョとフーガ
 アンダーソン：シンコペティッド・クロック
 ハイドン：交響曲 第104番「ロンドン」 ほか
料金 全席自由 一般 1,000円
 子ども (小学生～高校生) 500円



©Naoya Yamaguchi (Studio Diva)



©椎原一久

2024
1/ 23 [火] 12:00開演

アクロス・ランチタイムコンサートvol.103 長原幸太 & 田村響 デュオ・リサイタル

- 出演** ヴァイオリン/長原幸太 ピアノ/田村響
曲目 サン＝サーンス：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第1番 二短調 op.75
 サン＝サーンス：序奏と Rond・カプリチオソ イ短調 op.28 ほか
料金 全席指定 1,000円 (U25 500円)



©Akira Muto

ナビゲーター
片桐卓也 (かたぎり たくや)

1956年福島県生まれ。音楽ジャーナリストとして「音楽の友」「モーストリー・クラシック」誌などに執筆を続けるほか、NHK・FM、J-WAVEなどラジオでもクラシック情報を発信している。

主催：(公財)アクロス福岡

●諸事情により記載内容が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

2023年10月発行 (季刊)

